

# 債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー






南アフリカ



インドネシア



インド

| 国（地域）  | 格付<br>（※1） | 債券（※2）              | 為替（対円）              | 経済成長率            | 政策金利        | 先週の動向   | 今週の見通し   |
|--|------------|---------------------|---------------------|------------------|-------------|---|--|
|  |            | 10/11<br>（10/4との比較） | 10/11<br>（10/4との比較） | 前年比<br>（※3）      | 先週末         |   |  |
|  |            | 今後の見通し<br>（※4）      | 今後の見通し<br>（※5）      | 景気の方向性<br>（※6）   | 方向性<br>（※7） |   |  |
| カナダ<br>   | AAA        | 1.52%<br>（+0.28）    | 82.02円<br>（+2.12%）  | +1.6%<br>2019年2Q | 1.75%       | 発表された住宅着工件数が市場予想を上回ったほか、雇用統計は正規雇用者数が大幅増となるなど概ね良好な内容。原油価格が上昇したこともあり、カナダドルは対円で上昇。米国の金利上昇に伴い、国債利回りは上昇。 | CPI（消費者物価指数）や製造業売上高などが発表予定。引き続き、前週に楽観的な見方が広がった米中の通商問題を巡る動きから目が離せない環境下、債券・為替市場ともに一進一退の展開を予想。    |
|  | Aaa        | →<br>金利横ばい          | →                   | →<br>景気安定        | →<br>据え置き局面 |   |  |
| ブラジル<br>  | BB-        | 5.54%<br>（▲0.37）    | 26.38円<br>（+0.09%）  | +1.0%<br>2019年2Q | 5.50%       | 発表された小売売上高が市場予想を下回ったほか、自動車販売台数が前月比で減速を示す内容。ゲデス経財相が来年辞任するとの一部報道が波乱要因となったものの、レアルは対円で上昇。国債利回りは低下。      | 貿易収支などが発表予定。上院での2回目の審議が月内に実施される予定である年金改革法案の動向に注目が集まる中、利下げ効果への期待なども下支えとなり、債券・為替市場ともに一進一退の展開を予想。 |
|  | Ba2        | →<br>金利横ばい          | →                   | →<br>景気安定        | ↓<br>利下げ局面  |   |  |
| メキシコ<br> | A-         | 6.68%<br>（+0.03）    | 5.60円<br>（+2.20%）   | -0.8%<br>2019年2Q | 7.75%       | 発表されたCPIは市場予想と同程度となった一方、鉱工業生産は市場予想を上回る結果。米国およびカナダとの通商交渉における合意が近づいていると報道される中、メキシコペソは対円で上昇。国債利回りは上昇。  | 登録雇用創出合計などが発表予定。景気下支えのために今後も継続的な利下げが予想される中、債券市場は強含みの展開を予想。メキシコペソは上値の重い展開を予想。                   |
|  | A3         | ↓<br>金利低下           | →                   | →<br>景気安定        | ↓<br>利下げ局面  |   |  |

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。
















※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

| 国（地域）   | 格付<br>（※1） | 債券（※2）   | 為替（対円）  | 経済成長率   | 政策金利  | 先週の動向  | 今週の見通し   |
|---|------------|--|---|---|---|--|--|
|   |            | 10/11<br>（10/4との比較）<br>今後の見通し<br>（※4）  | 10/11<br>（10/4との比較）<br>今後の見通し<br>（※5）   | 前年比<br>（※3）<br>景気の方向性<br>（※6）   | 先週末<br>方向性<br>（※7）  |  |  |
| オーストラリア<br>  | AAA        | 1.02%<br>（+0.13）   | 73.56円<br>（+1.62%）  | +1.4%<br>2018年4Q  | 0.75%   | 発表された企業景況感は前月比で改善を示す一方、企業信頼感は前月比で悪化。米中通商協議で一部合意に至ったことなどを受け、豪ドルは対円で上昇。国債利回りは上昇。                           | 雇用統計や景気先行指数などが発表予定。引き続き、前週に進展が見られた米中通商協議の更なる動きや、中国の貿易収支などの経済指標に注目が集まる中、債券・為替市場ともに一進一退の展開を予想。 |
|   | Aaa        | <br>金利横ばい   |    | <br>景気安定   | <br>利下げ局面    |  |  |
| ニュージーランド<br> | AA+        | 1.16%<br>（+0.16）   | 68.63円<br>（+1.53%）  | +2.1%<br>2018年4Q  | 1.00%   | 発表された製造業PMI（購買担当者景況感指数）は前月比で横ばいとなる結果。米中通商問題の進展などによりリスク選好度が上昇する環境下、国債利回りは上昇。ニュージーランドドルは対円で上昇。             | 住宅売上高やCPIなどが発表予定。引き続き、中銀のハト派姿勢が続くと見られる中、金利水準は基調としては低下していく展開を予想。為替については、現状水準でのみみ合いを予想。        |
|   | Aaa        | <br>金利横ばい   |    | <br>景気安定   | <br>利下げ局面    |  |  |
| ノルウェー<br>  | AAA        | 1.23%<br>（+0.04）   | 11.92円<br>（+1.41%）  | -0.7%<br>2019年2Q  | 1.50%   | 発表されたCPIは市場予想並みとなったものの、鉱工業生産が前年を大きく下回ったほか、GDP（国内総生産）も前月比で減少する結果。市場のリスク選好度上昇もあり、ノルウェークローネは対円で上昇。国債利回りは上昇。 | 貿易収支や住宅価格指数などが発表予定。米中の通商協議や米国の金融政策など、外部環境に左右される環境が続くと想定される中、債券・為替市場はともに一進一退の展開を予想。           |
|   | Aaa        | <br>金利横ばい |  | <br>景気拡大 | <br>据え置き局面 |  |  |

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
- ※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

| 国（地域）   | 格付<br>（※1） | 債券（※2）   | 為替（対円）  | 経済成長率   | 政策金利   | 先週の動向   | 今週の見通し  |
|---|------------|--|---|---|--|---|---|
|   |            | 10/11<br>（10/4との比較）  | 10/11<br>（10/4との比較）   | 前年比<br>（※3）   | 先週末  |   |   |
|   |            | 今後の見通し<br>（※4）   | 今後の見通し<br>（※5）  | 景気の方向性<br>（※6）  | 方向性<br>（※7）  |   |   |
| 南アフリカ<br>  | BB+        | 7.31%<br>（+0.02）   | 7.32円<br>（+3.03%）   | +0.9%<br>2019年2Q  | 6.50%  | 発表された企業景況感市場予想を上回った一方、鉱物生産量は市場予想を下回る内容。米中通商問題の進展などによりリスク選好度が上昇する環境下、ランドは対円で上昇。国債利回りは小幅上昇。 | 小売売上高などの発表を予定。国内の経済指標に加え、米中の通商協議や米国の金融政策など、国外の動向にも方向性を左右される環境が続くと想定される中、債券・為替市場は一進一退の展開を予想。 |
|   | Baa3       | <br>金利横ばい   |    | <br>景気停滞   | <br>利下げ局面   |   |   |
| インドネシア<br> | BBB-       | 6.68%<br>（+0.04）   | 0.77円<br>（+1.40%）   | +5.1%<br>2018年4Q  | 5.25%  | 特に注目すべき経済指標の発表はなし。米中通商協議で一部合意に至る可能性が高まり、リスク選好度が上昇したことなどを受け、インドネシアルピアは対円で上昇。国債利回りは上昇。      | 貿易収支などの発表を予定。更なるデフォルトなどの国内情勢への不安がある一方、利下げも含めた政策対応への期待感もあり、債券・為替市場はともに一進一退の展開を予想。            |
|   | Baa2       | <br>金利横ばい   |    | <br>景気安定   | <br>利下げ局面   |   |   |
| インド<br>   | BBB-       | 6.32%<br>（+0.05）   | 1.52円<br>（+1.32%）   | +5.0%<br>2019年2Q  | 5.15%  | 発表された鉱工業生産は市場予想を下回る結果。経済指標は芳しくないものが続くものの、世界的にリスク選好度が上昇したことなどを受け、インドルピーは対円で上昇。国債利回りは上昇。    | 卸売物価やCPIなどが発表予定。引き続き、金融緩和の累積的な効果や法人税減税の効果などへの期待感もあり、債券・為替市場ともに一進一退の展開を予想。                   |
|   | Baa2       | <br>金利横ばい |  | <br>景気回復 | <br>利下げ局面 |   |   |

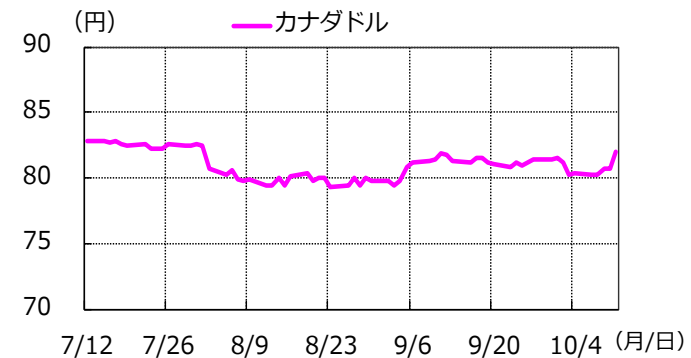
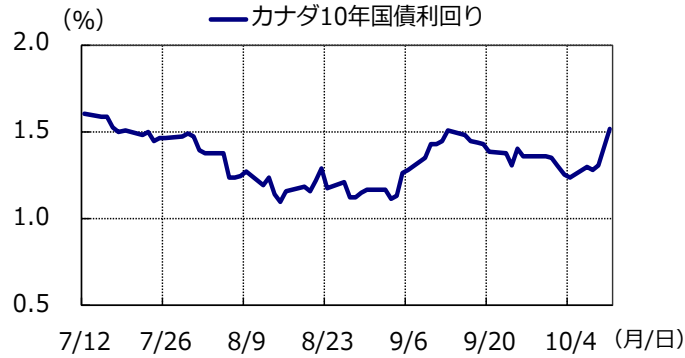
出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 国債利回りを表示（南アフリカ：3年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。
- ※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

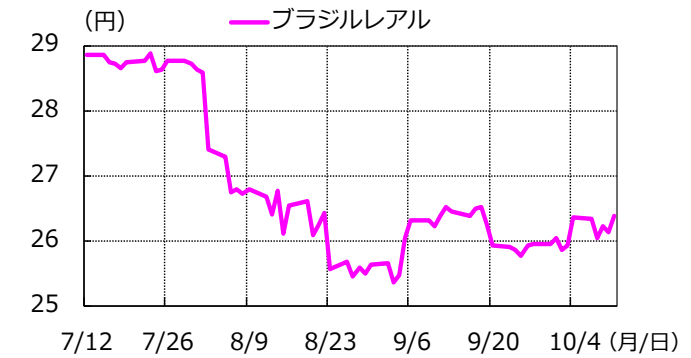
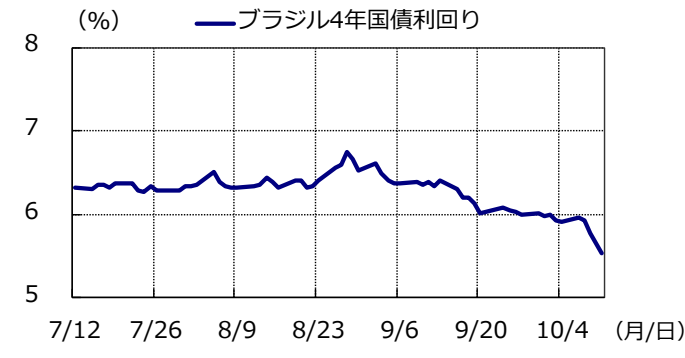
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/7/12～2019/10/11

カナダ



ブラジル



メキシコ

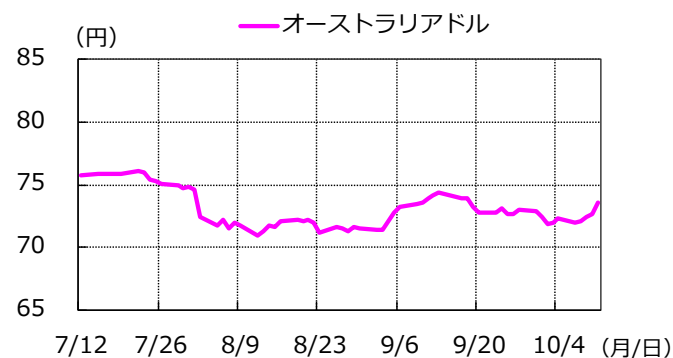


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバークのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

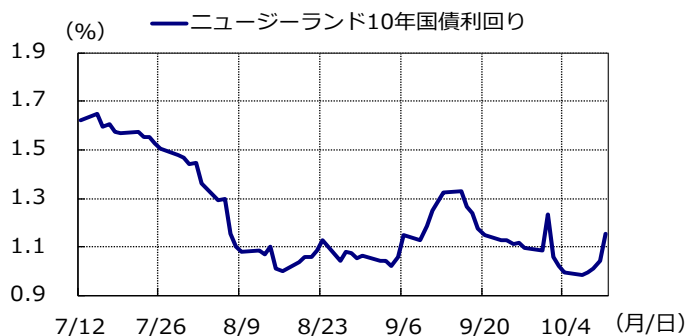
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/7/12～2019/10/11

オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

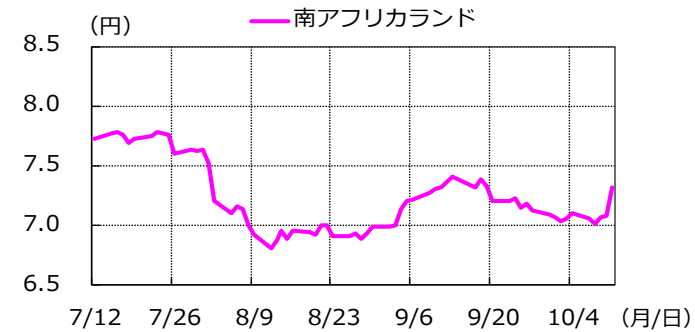
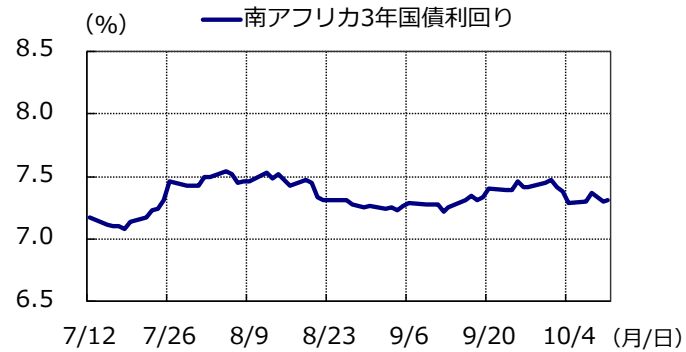


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

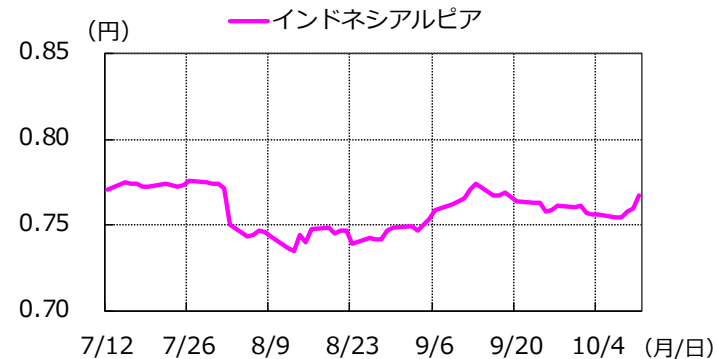
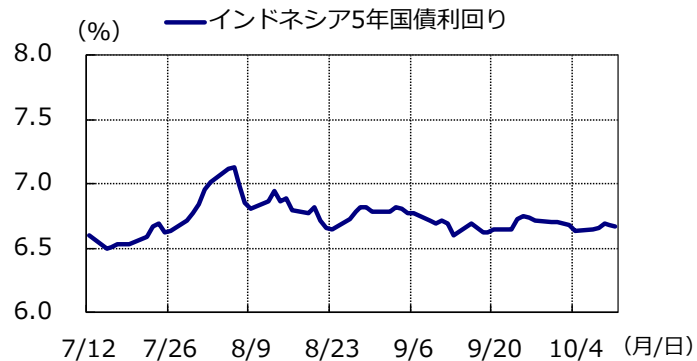
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/7/12～2019/10/11

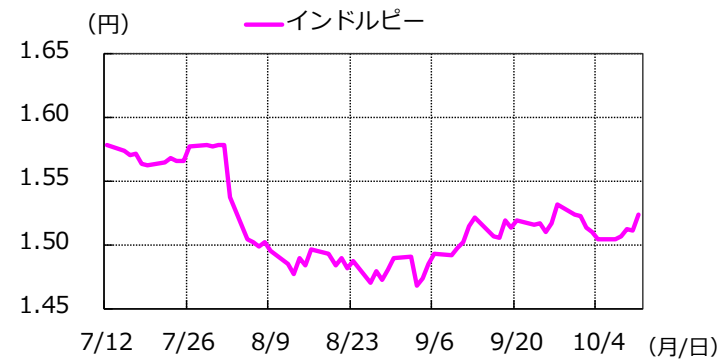
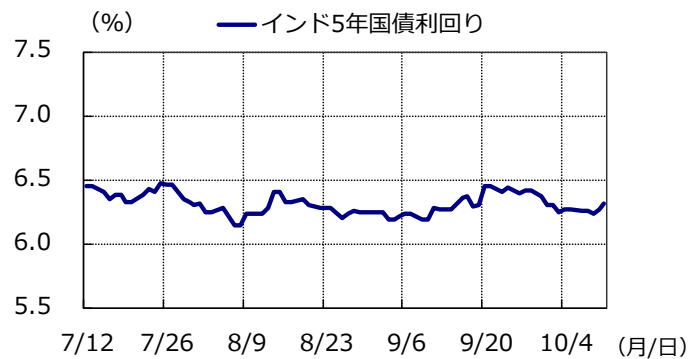
南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

# 投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

## 【投資信託に係るリスクと費用】

### ● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

### ● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

#### ■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.85%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

#### ■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.09%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

## 【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。